

## 2024 年度事業報告

### 1. 会議、広報活動および会員数

#### (1) 会議の開催状況

##### (a) 評議員会

開催年月日	会議の内容
第一回 (定時) 6月22日	(1) 評議員候補者の選任 (2) 2024-2026 年期理事および監事の選任 (3) 2024-2028 年期評議員の選任 (4) 2023 年度事業報告および計算書類報告
第二回 (臨時) 3月22日	(1) 2025 年度事業計画について (2) 2025 年度収支予算書について

##### (b) 理事会

開催年月日	会議の内容
第一回 (通常) 6月8日	(1) 理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (2) 2023 年度事業報告（案）について (3) 2023 年度計算書類報告について (4) 2020-2024 年期定時評議員会開催について (5) 2024 年度研究大会業務委託に関する件 (6) 新入会員の承認
第二回 (臨時) 6月22日	(1) 新理事長・副理事長・常任理事の選定 (2) 委員会新主任・新副主任の選定
第三回 (通常) 9月21日	(1) 理事長、副理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (2) 2024 年度学会奨励賞受賞者の決定について (3) 新入会員の承認

第四回 (通常) 11月15日	(1) 理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (2) 新入会員の承認
第五回 (通常) 12月21日	(1) 理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (2) ISAでのJAIRパネルに出席する会員に対する助成について (3) 新入会員の承認
第六回 (通常) 3月8日	(1) 理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (2) 2025年度事業計画書及び収支予算書について (3) 2025-2026年期中期臨時評議員会開催について (4) 英文ジャーナル編集委員会アシスタント職務規程改定の件 (5) 新入会員の承認

(c) 総会

11月16日、札幌コンベンションセンターにて会員総会を開催した。

(2) 各種広報活動の状況

実施月	実施内容	対象者	発行形態
5月7日	Newsletter 179号刊行	会員	学会ウェブサイト公開
7月31日	Newsletter 180号刊行	会員	
10月28日	Newsletter 181号刊行	会員	
1月27日	Newsletter 182号刊行	会員	

①Newsletterは学会ウェブサイトで公開している。

(<https://jair.or.jp/publications/nl.html>)

②Newsletterの目的は、評議員会・理事会・各種委員会・分科会・事務局の活動の現況と今後の方針について情報を発信するとともに、会員からの声を反映し、会員相互の情報交換を促進することにある。

③学会ウェブサイトを通じた情報発信も継続・拡充し、今期は刊行物の案内8件、理事会・委員会からの連絡19件、研究大会の関連情報25件、シンポジウム等の案内や公募情報101件、合計153件の発信を行った。

④会員に対する情報提供のサービスとしてメーリングリストを活用した情報提供を実施し、Newsletterの刊行や研究大会の報告者募集および学会誌への投稿募集などについて連絡を行った

(3) 会員数の状況

2024 年度新入会員	66 名
2024 年度退会会員	67 名

種別	人数
維持会員	0 名
一般会員	1,653 名
学生会員	146 名
シニア A 会員	101 名
シニア B 会員	97 名
家族会員	38 名
計	2,035 名

2025 年 3 月 31 日現在。

## 2. 事業の成果

### (1) 継 1. 機関誌・書籍発行事業

1. 和文機関誌『国際政治』214 号「地球環境ガバナンス研究の最先端」、215 号「国際政治なかの日米関係——1980 年代の諸相」、216 号「地域主義の新局面」をそれぞれ刊行した。レフェリーによる厳正な審査を行うことによって、高い学術研究水準を確保しつつ、独立論文を各号に掲載した。

2. 研究成果の公開を一段と進めるため、独立行政法人科学技術振興機構が運営する電子ジャーナルの無料公開システム (J-STAGE) を活用して、すでに 213 号まで掲載されている『国際政治』のバックナンバーを今期は 210 号まで無料公開した。

3. 英文機関誌 *International Relations of the Asia-Pacific (IRAP)* については、Vol.24, No.2、同 No.3、Vol.25, No.1 の計 3 冊を電子ジャーナルにて発行した。投稿論文の掲載可否を判断するにあたっては、国際的なレフェリー陣による厳正な審査を行い、国際的学術交流の最前線として高い水準を維持した。

4. IRAP のインパクト・ファクターは 2016 年度には 0.676 であったが、2020 年度には 1.406 に上がり、最新版の 2024 年度は 1.7 であった。

### (2) 継 2. 研究会・講演会事業

1. 11 月 15 日～11 月 17 日に札幌コンベンションセンターにて対面形式による研究大会を開催し、3 日間で参加者は 637 名を数えた。コロナ後初めて会費制の懇親会も再開し、300 名を超える参加があった。通常部会 13、市民公開講座を兼ねた部会 1、日韓合同部会 1、分科会 30 の企画を実施した。

2. 研究大会における部会、分科会プログラムは添付資料の通りである。

### (3) 継 3. 国際学術交流事業

1. KAIS（韓国国際政治学会）との交流を行なった。12月7日のKAIS研究大会に日本国際政治学会から遠藤貢理事長、富樫めぐみ・国際交流委員会副主任、石原雄介会員の3名を派遣した。石原会員は報告者、富樫会員は討論者として登壇した。また、日本国際政治学会の研究大会（11月16日）では、日韓合同部会“Examining the Transformation of the International Order and Political Landscape through Diverse Approaches and Perspectives”を開催し、KAISから4名、日本国際政治学会から3名が報告者・討論者・司会者として参加した。

2. 研究大会では、日韓合同部会の開催について江草基金より国際研究集会開催助成を受けた。

3. International Studies Association、WISC（World International Studies Committee）など海外諸学会の動向や学術情報を会員に伝えて会員の国際学術会議への参加を促し、諸地域・諸外国との学術交流のネットワーク構築に取り組んだ。

### (4) 継 4. 院生・若手研究者助成事業

1. 院生・若手研究者の海外における研究成果発表や研究交流を促すため、国際会議に参加する会員に対してその渡航費などの支援を行う国際学術交流助成制度を今年度も継続し、International Political Science Association RC36 and RC51 Joint Interim Conference（於：ポルトガル）への参加者1名、Interdisciplinary Doctoral Conference（於：チェコ）への参加者1名、International Studies Association（ISA）研究大会への参加者1名への助成を行った。

2. 2021年度より開始された院生・若手研究者に対する国内旅費助成制度を今年度も継続した。本学会研究大会登壇者5名への助成を行った。

### 他 1. 研究活動奨励事業

2024年度の第17回学会奨励賞を、玉井隆会員の「ワクチン接種の政治力学—ナイジェリアにおけるポリオ根絶イニシアティブを事例に」（『国際政治』第211号）に授与した。本賞は2008年度に創設されたものであり、前年度の和文機関誌『国際政治』および英文機関誌 *International Relations of the Asia-Pacific* の執筆者のうち、40歳以下の若手会員を対象とした学会賞で、学会奨励賞選考委員会が選考を行う。

また、玉井会員による論文英訳に対して助成を行った。

### 4. 庶務の概要

(1) 役員等に関する事項

2024 年度役員名簿 (アイウエオ順)

理事長 副理事長 理事	遠藤 貢 遠藤 誠治 湯川 拓 青野 利彦 板橋 拓己 井上 正也 葛谷 彩 倉科 一希 佐橋 亮 下谷内 奈緒 末近 浩太 多湖 淳 錦田 愛子 森井 裕一	東京大学教授 成蹊大学教授 東京大学准教授 一橋大学教授 東京大学教授 慶應義塾大学教授 明治学院大学教授 同志社大学教授 東京大学東洋文化研究所教授 津田塾大学准教授 立命館大学教授 早稲田大学教授 慶應義塾大学教授 東京大学教授
監事	楠 綾子 山田 哲也	国際日本文化研究センター教授 南山大学教授

評議員	秋山 信将 飯田 敬輔 石田 淳 岩間 陽子 遠藤 乾 大島 美穂 大矢根 聡 酒井 啓子 佐々木 卓也 高原 明生 中西 寛	一橋大学教授 東京大学教授 東京大学教授 政策研究大学院大学教授 東京大学教授 津田塾大学教授 同志社大学教授 千葉大学教授 立教大学教授 東京女子大学特別客員教授 京都大学教授
-----	---	---

一般財団法人日本国際政治学会 2024 年度研究大会 部会・共通論題プログラム

第1日 11月15日(金) 13:00~15:30

午後の部会 (13:00~15:30)

部会1 「『9条=安保体制』の再検討と東アジア」

司会 井上 正也 (慶應義塾大学)

報告 濱砂 孝弘 (早稲田大学)

「九条=安保体制」への道——集团的自衛権の政治外交史 1945-1960年」

池宮城 陽子 (日本学術振興会)

「9条=安保体制」の展開と沖縄」

加藤 博章 (同志社大学)

「9条=安保体制と自衛隊海外派遣——最小限度とは何だったのか」

討論 松田 康博 (東京大学)

池田 慎太郎 (関西大学)

部会2 「アメリカ政治・外交への接近法」

司会 伊藤 裕子 (亜細亜大学) (討論を兼ねる)

報告 信田 智人 (国際大学)

「日米両国における日米関係研究」

佐藤 真千子 (静岡県立大学)

「宗教とアメリカ外交政策——研究動向と政策形成の文脈から」

池上 大祐 (琉球大学)

「アメリカ太平洋島嶼現代史の現状と課題——グアムを中心として」

討論 遠藤 泰生 (関西国際大学)

部会3 「ノーベル平和賞をめぐる国際政治」

司会 田中 浩一郎 (慶應義塾大学)

報告 吉武 信彦 (高崎経済大学)

「ノーベル平和賞と日本歴代——歴代日本人候補をめぐる国際政治、1901-1974年」

竹中 千春 (立教大学)

「南アジアとノーベル平和賞の政治的ダイナミクス——ポストコロニアル、グローバルサウス、ジェンダーの視角から」

榎本 珠良 (明治学院大学)

『人道的軍縮』キャンペーンとノーベル平和賞」

討論 戸田 真紀子 (京都女子大学)

佐藤 史郎 (東京農業大学)

#### 部会 4 「国際制度と国内秩序の連関」

司会 石黒 馨 (神戸大学)

報告 浜中 慎太郎 (アジア経済研究所)

「国内・国際制度の連関:法伝統の視点から——ISDS、MRA、GIs は英米法的か？」

吉本 郁 (東京大学)

「民主化、不平等と援助」

市原 麻衣子 (一橋大学)

「民主主義国の国際連携——安全保障と価値の連関とその影響」

討論 竹中 治堅 (政策研究大学院大学)

神江 沙蘭 (関西大学)

#### 分科会セッション A (15:45~17:45) 別掲

第 2 日 11 月 16 日 (土) 09:30~12:00 16:00~18:50 (共通論題)
--

#### 午前の部会 (09:30~12:00)

#### 部会 5 「規範と紛争の複雑系」

司会 柄谷 利恵子 (関西大学)

報告 関山 健 (京都大学)

「気候変動を遠因とする紛争と社会規範」

中西 嘉宏 (京都大学)

「ヒエラルキーを転げ落ちる——国際規範とミャンマーにおける『体制移行』の関  
係について」

大内 勇也 (神戸大学)

「シリア内戦と反不処罰規範の多層的変容」

討論 土佐 弘之 (ノートルダム清心女子大学)

阿部 悠貴 (熊本大学)

#### 部会 6 「歴史問題とは何か——国際政治学・比較政治学・歴史学からの横断的検証」

司会 大矢根 聡 (同志社大学) (討論を兼ねる)

報告 浅野 豊美 (早稲田大学)

「主体の変容を前提とする国際関係学をめざして——国際和解学の挑戦」

武井 彩佳 (学習院女子大学)

「和解の規範をいかに創り出すか——法、政治と和解文化」

熊谷 奈緒子 (青山学院大学)

「和解における『女性の尊厳』——日韓慰安婦問題とボスニア・ヘルツェゴヴィナの平和構築過程の社会構成主義的分析」

討論 豊田 哲也 (国際教養大学)

## 部会7 「再び国家間戦争の時代へ？」

司会 宮岡 勲 (慶応義塾大学)

報告 千々和 泰明 (防衛研究所)

「国家間戦争終結研究からの示唆——ロシア・ウクライナ戦争と『台湾有事』を念頭に」

佐桑 健太郎 (青山学院大学)

「領土問題の平和的解決を阻むもの」

石田 淳 (東京大学)

「安心供与とは何か——秩序論の交渉論的基盤」

討論 板山 真弓 (国士舘大学)

片桐 梓 (大阪大学)

## 部会8 『冷戦』の語り方

司会 鳥潟 優子 (同志社女子大学) (討論を兼ねる)

報告 福田 円 (法政大学)

「中国・台湾からみる『冷戦』」

山本 健 (西南学院大学)

「冷戦史研究の中の『ヨーロッパ冷戦史』」

神田 豊隆 (新潟大学)

「冷戦と社会民主主義——日本社会党の外交論を焦点として」

討論 白鳥 潤一郎 (放送大学)

## 部会9 日韓合同部会 “Examining the Transformation of the International Order and Political Landscape through Diverse Approaches and Perspectives” (英語で実施)

Chair:

ENDO Mitsugi (JAIR President, The University of Tokyo)

Speakers:

KAGOTANI Koji (Chuo University), KO Jiyoung (Korea University)\*,

WU Wen-Chin (Academia Sinica)\*

\*No-presenting Co-author

“When Do Diplomatic Protests Succeed? Political Information and No Rally Effect”

LEE Geunwook (Sogang University)

“ROK’s Military Posture: Seoul’s Strategy, Buildup, and Implications for Security in East Asia”

JEONG Sangmi (Korean National Diplomatic Academy)

“Security Threats and South Koreans’ Perception of Japan: Assessing Public Opinion on ROK-Japan Relations and the ROK-U.S.-Japan Security Cooperation (2018~2021)”

Discussant:

LIM Jaehwan (Aoyama Gakuin University)

KIM Sunil (Kyung Hee University)

CHO Youngho (Sogang University)

分科会セッション B (12:45~14:00) 別掲

分科会セッション C (14:15~15:30) 別掲

総会 (15:30~16:00)

**【共通論題】「国際政治学と政策形成——EBPMの可能性と限界」(16:00~18:50)**

司会 古城 佳子 (青山学院大学)

報告 多湖 淳 (早稲田大学)

「EBPMと国際政治学——安全保障分野」

宇治 梓紗 (京都大学)

「環境政策とEBPM」

飯田 敬輔 (東京大学)

「国際政治理論から見たEBPM」

討論 山田 敦 (一橋大学)

遠藤 乾 (東京大学)

懇親会 (19:05~20:35)

**第3日 11月17日(日) 14:00~16:30**

分科会セッション D (09:30~11:00) 別掲

分科会セッション E (11:15~12:55) 別掲

**部会 10 「グローバルな食料安全保障の課題」**

司会 毛利 勝彦 (国際基督教大学)

報告 高橋 敏哉 (松蔭大学)

「経済安全保障と食料安全保障——その概念と体系」

市川 颯 (東洋大学)

「ウクライナ戦争と食糧安全保障——ポーランドの視点から」

- 鍋島 孝子（北海道大学）  
「アフリカにおける食糧安全保障——国際政治から顧みられなかった農民の人権」
- 討論 上村 雄彦（横浜市立大学）  
渡邊 智明（福岡工業大学）

#### 部会 11 ガザをめぐる国際政治【市民講座をかねる】

- 司会 池田 明史（東洋英和女学院大学）
- 報告 江崎 智絵（防衛大学校）  
「ガザの統治と中東和平——ハマースとの関係の観点から」  
三牧 聖子（同志社大学）  
「ガザ危機とアメリカ国際主義の行方」  
前川 一郎（立命館大学）  
「帝国主義忘却の現代史——ガザをめぐる国際政治があらわすもの」
- 討論 高原 明生（東京女子大学）  
辻田 俊哉（大阪大学）

#### 部会 12 「非承認国家問題再論——パレスチナ、ドンバス、東ティモール」

- 司会 富樫 耕介（同志社大学）
- 報告 錦田 愛子（慶應義塾大学）  
「実態なき承認国家としてのパレスチナ——政治戦略としての国家承認」  
松里 公孝（東京大学）  
「主権国家の物心崇拜と分離紛争——旧社会主義圏の経験」  
滝澤 美佐子（桜美林大学）  
「東ティモール国家独立における国際法・国際機構の関与とその課題」
- 討論 遠藤 貢（東京大学）  
立花 優（北海道大学）

#### 部会 13 「不正義と補償・賠償の国際政治」

- 司会 藤重 博美（青山学院大学）
- 報告 飯嶋 佑美（日本国際問題研究所）  
「気候変動の悪影響に伴う損失と損害を巡る国際政治」  
川喜田 敦子（東京大学）  
「第二次世界大戦後のドイツの戦争賠償と被害者補償」  
鶴田 綾（中京大学）  
「ヨーロッパの植民地責任とアフリカ——ベルギー・コンゴ関係を中心に」
- 討論 網谷 龍介（津田塾大学）  
望月 康恵（関西学院大学）

#### 部会 14 「対外関係の変動と日本のインテリジェンス体制」

司会 岩間 陽子 (政策研究大学院大学)

報告 宮杉 浩泰 (明治大学)

「戦前期日本の情報活動と対外政策の相互作用」

小島 吉之 (帝塚山大学)

「戦後日本のインテリジェンスと国家理性」

小林 良樹 (明治大学)

「2000年代以降の日本のインテリジェンス機構の変容とその要因」

討論 森口 由香 (京都大学)

関 誠 (帝塚山大学)

#### 部会 15 「見田宗介／真木悠介と国際政治学——日本発の〈学知〉からのグローバルな国際関係研究へ」

司会 安高 啓朗 (立命館大学)

報告 酒井 啓子 (千葉大学)

「地域研究/グローバル関係学と見田宗介/真木悠介」

前田 幸男 (創価大学)

「大地から逆照射された国際政治学——通奏低音としての見田宗介／真木悠介」

芝崎 厚士 (駒澤大学)

「自我・時空・世界 グローバル関係研究と見田宗介/真木悠介」

討論 向山 直佑 (東京大学)

浅香 幸枝 (南山大学)

### 一般財団法人日本国際政治学会 2024 年度研究大会 分科会プログラム

#### ◆11月15日(金)

#### 分科会セッションA (15:45~17:45)

(※A-1は15:45~17:15に実施)

#### A-1 日本外交史 I / 東アジア国際政治史合同分科会

責任者 吉田 真吾 (近畿大学)

福田 円 (法政大学)

テーマ 近現代中国における治外法権とその撤廃

司会 川島 真 (東京大学)

報告 塚本 英樹 (島根県立大学)

「中国分割と日本人の大陸進出——租借地における領事裁判権問題」

景 旻 (東京大学)

「中華人民共和国成立前後の外国人『特権』の変化——地方公文書に基づく再

考察」

討論 川島 真 (東京大学)  
奈良岡 聡智 (京都大学)

**A-2 政策決定分科会 I** 責任者 三浦 秀之 (杏林大学)

テーマ 経済安全保障と伝統的安全保障の相克

司会 三浦 秀之 (杏林大学)

報告 杉之原 真子 (フェリス女学院大学)

「日本の対内直接投資規制についての政治学的分析」

井戸本 雄児 (カリフォルニア大学サンディエゴ校)

“China’s Peaceful Rise, After All? The Threat of Rising Powers  
Reconsidered”

大崎 祐馬 (同志社大学)

「国際規範化する『経済安全保障』概念における制度化と履行」

討論 齊藤 孝祐 (上智大学)

三浦 秀之 (杏林大学)

**A-3 国際交流分科会**

責任者 井上 浩子 (大東文化大学)

テーマ 自由論題

司会 井上 浩子 (大東文化大学)

報告 堀内 めぐみ (元桜美林大学)

「『文化国家』を問い直す——『文化』を創るとは何を意味するのか」

久永 優吾 (上智大学)

「非民主主義国家の『司法外交』——トルコ憲法裁判所を事例として」

崔 仁赫 (一橋大学)

「日本の国会議員の外国に関する発言感情に与える要因分析——政治テキスト  
を対象とした実証分析」

討論 川村 陶子 (成蹊大学)

浜中 新吾 (龍谷大学)

**A-4 院生・若手研究分科会 I**

責任者 富田 健司 (九州大学)

テーマ 冷戦期における国際関係の変容——二国間関係と野党の目線から

- 司会 竹野 貴子 (南山大学)
- 報告 西村 巧 (関西大学)  
「冷戦期米ソにおける信頼醸成措置の再考——レーガン政権を事例として」  
成 炫旻 (一橋大学)  
「戦後日本における『自主防衛』論——70年安保に向けた民社党の防衛構想を中心に」  
本藤 優典 (京都大学)  
「1970年代における日本の対オーストラリア資源外交」
- 討論 村田 晃嗣 (同志社大学)  
若月 秀和 (北海学園大学)  
永野 隆行 (獨協大学)

◆11月16日(土)

**分科会セッションB (12:45~14:00)**

**B-1 日本外交史分科会Ⅱ**

- 責任者 吉田 真吾 (近畿大学)
- テーマ 近代日本の会議外交と外務省
- 司会 吉田 真吾 (近畿大学)
- 報告 阿曾沼 春菜 (広島修道大学)  
「第二回ハーグ万国平和会議(1907)と日本外交」  
種稲 秀司 (國學院大學)  
「戦前期日本外務省における在外幹部のキャリアパス——基本パターンとその運用に関する考察」
- 討論 佐々木 雄一 (明治学院大学)

**B-2 東アジア国際政治史分科会**

福田 円 (法政大学)

- テーマ 現代中国外交と統一戦線工作
- 司会 三宅 康之 (関西学院大学)
- 報告 邵 天澤 (京都大学)  
「第二中間地帯論の成果と蹉跌——中国の対イタリアと対西ドイツ外交 1964」  
丁 天聖 (東京大学)  
「中国『愛国統一戦線』の形成と対台湾政策」
- 討論 三宅 康之 (関西学院大学)  
杉浦 康之 (防衛省防衛研究所)

**B-3 東アジア／東南アジア合同分科**

責任者 土屋 貴裕 (京都先端科学大学)  
井原 伸浩 (名古屋大学)

テーマ 自由論題  
司会 井原 伸浩 (名古屋大学)  
報告 阿部 和美 (二松学舎大学)  
「ジョコ・ウィドド政権下のパプア地域」  
永田 伸吾 (金沢大学)  
「北東アジアにおける大国間競争の展開——現状変更国による『探り  
(probing)』の常態化への日本の対応を中心に」  
討論 首藤 もと子 (筑波大学)  
土屋 貴裕 (京都先端科学大学)

**B-4 アフリカ分科会** 責任者 荒木 圭子 (東海大学)  
テーマ アフリカ外交の諸相  
司会 荒木 圭子 (東海大学)  
報告 佐藤 裕視 (麗澤大学)  
「アフリカ人組織による民族主義運動の国際的展開——タンガニーカ・アフリ  
カ民族同盟(TANU)と国際信託統治制度の相互作用」  
細井 友裕 (東京大学)・\*高橋 知子 (京都大学) (\*非登壇共著者)  
「アフリカのサミット外交——日本と中国の経験を整理する」  
討論 井上 実佳 (東洋学園大学)  
武内 進一 (東京外国語大学)

**B-5 安全保障分科会 I** 責任者 栗田 真広 (防衛研究所)  
テーマ 核をめぐる日本の言説  
司会 栗田 真広 (防衛研究所)  
報告 梅原 季哉 (広島市立大学)  
「核使用に関する日本における規範受容——言説分析を軸として」  
王 凱標 (広島大学)  
「脅威認識から見る核秩序の変遷——日本の非核政策と核不拡散体制」  
討論 向 和歌奈 (亜細亜大学)

**B-6 国連研究分科会** 責任者 藤重 博美 (青山学院大学)  
テーマ 自由論題  
司会 山本 慎一 (香川大学)  
報告 篠田 英朗 (東京外国語大学)  
「国際社会の構造転換と岐路に立たされた国連——縮小する PKO・援助活動とパ  
ートナーシップ国際平和活動の変容」  
武藤 亜子 (JICA 緒方研究所)  
「人間の安全保障とグローバル・ヘルス——コロナ後の国連の役割を中心に」

討論 山本 慎一（香川大学）  
詫摩 佳代（慶應義塾大学）

**B-7 平和研究分科会 I** 責任者 古澤 嘉朗（広島市立大学）

テーマ 和平合意と反政府勢力による人道侵害

司会 古澤 嘉朗（広島市立大学）

報告 田中 聡（立命館大学）

「権力分有による平和維持とクライエンテリズム——デイトン合意後のボスニアを事例に」

楊 允晶（早稲田大学）

“Partners in Crime? Examining Rebel Groups’ Humanitarian Violations and Alliance”

討論 杉浦 功一（文教大学）

杉木 明子（慶應義塾大学）

### 分科会セッション C (14:15~15:30)

**C-1 日本外交史分科会 III** 責任者 吉田 真吾（近畿大学）

テーマ 再考 戦後日華・日韓関係

司会 中島 琢磨（九州大学）

報告 横山 雄大（東京大学）

「1950年代後半における日本社会党と中華民国の接近」

関 智焄（立命館大学）

「日本の戦後民主主義における日韓国交正常化——「構成主義」の概念からのアプローチ」

討論 添谷 芳秀（慶應義塾大学）

**C-2 アメリカ政治外交分科会 I** 責任者 島村 直幸（杏林大学）

テーマ <合評会>青野利彦『冷戦史（上下）』（中公新書、2023年）

司会 水本 義彦（獨協大学）

報告 著者：青野 利彦（一橋大学）

討論 評者：佐々木 卓也（立教大学）

評者：高橋 和宏（法政大学）

**C-3 ロシア・東欧分科会 I** 責任者 加藤 美保子（広島市立大学）

テーマ 戦時下の動員と愛国教育

司会 浜 由樹子（静岡県立大学）

報告 西山 美久（東京大学）

「ロシア・ウクライナ戦争下におけるプーチン政権の愛国教育」

岡田 美保（防衛大学校）

「ロシアにおける兵員補充の諸問題」

討論 立石 洋子（同志社大学）

油本 真理（法政大学）

**C-4 ラテンアメリカ分科会** 責任者 浦部 浩之（獨協大学）

テーマ カリブに働く地域間関係のダイナミズム

司会 馬場 香織（北海道大学）

報告 岸川 毅（上智大学）

「中台米の外交競争とドミニカ共和国の選択」

森口 舞（名城大学）

「ジャマイカのブラック・パワー運動における汎アフリカ主義の受容」

討論 片岡 真輝（東京外国語大学）

松本 八重子（亜細亜大学・上智大学）

**C-5 安全保障分科会Ⅱ** 責任者 栗田 真広（防衛研究所）

テーマ 軍備管理・軍縮・不拡散の諸相

司会 福田 毅（国立国会図書館）

報告 一政 祐行（防衛研究所）

「2 国間軍備管理条約の『生と死』——軍備管理条約の終焉から新たな軍備管理への架橋を巡る一考察」

田中 極子（東洋英和女学院大学）

「バイオテクノロジーの安全保障上の位置づけ」

討論 福田 毅（国立国会図書館）

有江 浩一（防衛研究所）

**C-6 政策決定分科会Ⅱ** 責任者 三浦 秀之（杏林大学）

テーマ 国際政治と国内政治の連繋

司会 細谷 雄一（慶應義塾大学）

報告 Emily S. Chen（東京大学）

“Beliefs, Identities and Pragmatism: Why Japanese Policymakers Are Selling Liberal Democracy in the 21st Century”

Shin Do Hyung（京都大学）

「日本と韓国の労働移民政策における国内政治アクターの連合体の役割」

討論 細谷 雄一（慶應義塾大学）

手塚 沙織（南山大学）

- C-7 ジェンダー分科会** 責任者 大野 聖良 (お茶の水女子大学)
- テーマ フェミニズム/ジェンダー理論から捉える国際政治の現在
- 司会 大野 聖良 (お茶の水女子大学)
- 報告 本山 央子 (お茶の水女子大学)
- 「帝国主義とフェミニズムの新しい関係?——価値の外交とジェンダー主流化」
- 土野 瑞穂 (明星大学)
- 「ジェンダーの視点からみた 1990 年代以降の紛争の様相——CRSV および CBOW の存在から」
- 討論 和田 賢治 (武蔵野学院大学)

◆11月17日(日)

分科会セッションD (9:30~11:00)

- D-1 欧州国際政治史・欧州研究分科会 I** 責任者 鳥潟 優子 (同志社女子大学)
- テーマ ヨーロッパ国際政治におけるイニシアティブ掌握の試み?
- 司会 小川 浩之 (東京大学)
- 報告 佐竹 壮一郎 (白鷗大学)
- 「デモクラシーウォッシング?——EU における政治参加促進をめぐる」
- 狐塚 祐矢 (東京大学)
- 「デタント期におけるドイツ社会民主党の『欧州戦略』——欧州左派をめぐる政党外交に着目して」
- 討論 細井 優子 (拓殖大学)
- 葛谷 彩 (明治学院大学)

- D-2 ロシア・東欧分科会 II** 責任者 加藤 美保子 (広島市立大学)
- テーマ アジアのロシア、ヨーロッパのロシア
- 司会 加藤 美保子 (広島市立大学)
- 報告 左近 幸村 (九州大学)
- 「ウラジオストクの『自由港』は必然か——歴史的比較の試み」
- 長島 徹 (外務省)
- 「対ウクライナ戦争におけるロシアの国籍政策の変容」
- 討論 堀内 賢志 (静岡県立大学)
- 松寄 英也 (津田塾大学)

- D-3 国際統合分科会** 責任者 東野 篤子 (筑波大学)
- テーマ EU における中・東欧諸国およびトルコ

司会 東野 篤子（筑波大学）  
報告 仙石 学（北海道大学）  
「欧州議会選挙と東欧政治——ヴィシェグラード諸国を中心に」  
今井 宏平（アジア経済研究所）  
「『永続的』加盟交渉国トルコにおける国民のEUに対する期待と不満——2023年および2024年実施の世論調査の結果から」  
討論 石川 雄介（地経学研究所）  
中井 遼（東京大学）

#### D-4 国際政治経済Ⅰ／トランスナショナル合同

責任者 三浦 聡（名古屋大学）  
細田 晴子（日本大学）

テーマ グローバル・ガバナンスの自省作用による民主的変革

司会 半澤 朝彦（明治学院大学）

報告 西谷 真規子（神戸大学）

「自省的なグローバル・ガバナンスの有効性と正統性」

赤星 聖（神戸大学）

“Transforming humanitarian governance from below? :

From the perspective of reflexive governance”

西村 もも子（東京女子大学）

「知的財産権の保護をめぐるグローバル・ガバナンス——オープンイノベーションと持続可能な社会」

討論 勝間田 弘（東北大学）

高橋 若菜（宇都宮大学）

#### D-5 環境分科会

責任者 中山 賢司（創価大学）

テーマ 気候変動課題の新たなフロンティア——安全保障戦略とサステナブル投資

司会 渡邊 理絵（青山学院大学）

報告 小尾 美千代（南山大学）

「アメリカ国防総省による脱炭素化の取り組みと安全保障戦略としての気候変動対策」

御代田 有希（東京大学）

「低炭素経済への移行におけるサステナブル投資の進展と影響」

討論 太田 宏（早稲田大学）

蓮井 誠一郎（茨城大学）

#### D-6 院生・若手研究分科会Ⅱ

責任者 富田 健司（九州大学）

テーマ 現代の国際関係における経済戦略と安全保障——貿易、技術、資源を巡る国家

戦略

司会 鈴木 一人 (東京大学)

報告 周 放 (早稲田大学)

「危機下の自由主義的国際秩序の進化——日米貿易摩擦と米中貿易戦争の比較分析」

佐久間 大介 (東海大学)

「戦略物資がもたらす国家間関係への影響力——半導体の事例を中心に」

劉 雅静 (慶應義塾大学)

「中東地域情勢に基づく日本のエネルギー安全保障政策の変容——資源外交を中心に」

討論 松村 博行 (岡山理科大学)

鈴木 一人 (東京大学)

小林 周 (日本エネルギー経済研究所)

◆11月17日(日)

分科会セッションE (11:15~12:55)

E-1 欧州国際政治史・欧州研究Ⅱ／日本外交史Ⅳ合同分科会

責任者 鳥潟 優子 (同志社女子大学)

吉田 真吾 (近畿大学)

テーマ 1970年代の日米欧三極国際秩序の模索と日欧関係

司会 黒田 友哉 (専修大学)

報告 鈴木 宏尚 (静岡大学)

「G5の誕生と日本の通貨外交、1971-1973——日米欧三極国際秩序の観点から」  
武田 悠 (広島市立大学)

「カナダのウラン禁輸と日米欧関係、1976-1978」

能勢 和宏 (立命館大学)

「GATT東京ラウンドにおける日EC関係、1973-1979——欧州委員会の対日認識をてがかりに」

討論 楠 綾子 (日本国際文化研究センター)

山口 育人 (奈良大学)

E-2 アメリカ政治外交分科会Ⅱ

責任者 島村 直幸 (杏林大学)

テーマ 対外政策決定の理論と現実

司会 佐藤 丙午 (拓殖大学)

報告 溜 和敏 (中京大学)

「なぜアメリカはインドに譲歩したのか——印米原子力協力協定(2008年)交渉の検討」

Chrystopher S. Kim (一橋大学)

“Liberty Beyond Borders: The Mobilization Factor in Great Power  
Military Interventions”

討論 溝口 聡 (関西外国語大学)  
草野 大希 (埼玉大学)

**E-3 中東分科会** 責任者 千葉 悠志 (京都産業大学)

テーマ ガザ戦争をめぐる国際仲介交渉

司会 岩坂 将充 (北海学園大学)

報告 山本 健介 (静岡県立大学)

「ガザ戦争はなぜ長期化したのか——イスラエルとハマースの停戦交渉をめぐる政治」

堀抜 功二 (日本エネルギー経済研究所)

「ガザ戦争におけるカタルの『非中立的』仲介外交の分析」

横田 貴之 (明治大学)

「ガザ戦争におけるエジプトの仲介外交とその内政的要因」

討論 前嶋 和弘 (上智大学)

**E-4 理論と方法分科会** 責任者 久保田 徳仁 (防衛大学校)

テーマ 国際関係の理論と検証

司会 久保田 徳仁 (防衛大学校)

報告 小浜 祥子 (北海道大学)

「外遊の効果に関する実験的検証——政治家は内政と外交は両立できるか」

柴田 佳祐 (広島大学)

「同盟の分断戦略理論の再検討——『探り』を導入した理論の構築と検証」

渡邊 涼一 (筑波大学)

「ブザン流英国学派の功罪——一次的制度概念と制度論的英国学派の批判的検討」

討論 篠本 創 (早稲田大学)

石川 卓 (防衛大学校)

大中 真 (桜美林大学)

**E-5 国際政治経済分科会Ⅱ** 責任者 三浦 聡 (名古屋大学)

テーマ 山本吉宣『言説の国際政治学——理論、歴史と「心の地政学」』をめぐって  
(ラウンドテーブル方式)

司会 佐橋 亮 (東京大学)

報告 足立 研幾 (立命館大学)

「国際政治理論の観点から」

江藤 名保子 (学習院大学)  
「中国外交論の観点から」  
金子 将史 (政策シンクタンク PHP 総研)  
「政策論の観点から」  
川名 晋史 (東京工業大学)  
「日本外交論の観点から」

**E-6 平和研究分科会 II** 責任者 古澤 嘉朗 (広島市立大学)

テーマ 東南アジアの紛争解決における伝統的制度と近代的制度の折衷と適応  
司会 二村 まどか (法政大学)  
報告 上杉 勇司 (早稲田大学)  
「東南アジアの紛争解決における伝統的制度と近代的制度の折衷と適応——平和構築のハイブリッド論における伝統と慣習の再評価」  
宮澤 尚里 (早稲田大学)  
「資源管理における伝統的組織と制度の役割——インドネシア・バリ州の事例から」  
堀江 正伸 (青山学院大学)  
「国境を跨ぐ社会における慣習法の平和構築への適用について——東・西ティモール国境付近に住む人々を事例に」  
香川 めぐみ (早稲田大学)  
“Gradational Hybridity in Dispute Resolution: A Case Study of Customary, Islamic and Modern Mechanisms in the Bangsamoro, the Philippines”  
討論 二村 まどか (法政大学)  
クロス 京子 (京都産業大学)

**2. 和文学機関誌『国際政治』214号～216号掲載論文**

『国際政治』214号
阪口功「序論 地球環境ガバナンス研究の最先端」
渡邊理絵「ドイツのエネギーガバナンス (一九八三年ー二〇二一年)」
近藤悠生、山田高敬「グローバルな気候変動ガバナンスの『共律化』」
太田宏、佐藤勉「パリ協定に貢献する鉱物資源及び金融・投資分野のガバナンスの現状と課題」
山本剛「気候変動危機によって高まる電力安全保障の重要性」
米田立子「農業・食料分野における地球環境保全規範の受容要因」
渡邊智明「プライベート標準とパブリック環境ガバナンスの共進化」
王智健「ビッグサイエンスと地球環境保護」

<独立論文>

佐々木雄一「勢力範囲（勢力圏）概念と近代日本外交」

兪敏浩「日中国交正常化における中国の政策過程」

<書評論文>

吉田真吾「防衛政策史研究の最先端」

前田亮介「敗戦国の経済的包摂／参加をめぐるディレンマ」

<書評>

湯川拓、岩下明裕、畠山京子

### 『国際政治』215号

楠綾子「序論——1980年代の諸相」

進藤翔太郎「日米オレンジ問題とロビー活動——アメリカ対日協議会の遺産としてのケイ・スガハラの政治的役割」

Bingyi Gong「中国市場をめぐる日米競争 一九七七～一九八二——コンピューター輸出問題を中心に」

加藤博章「湾岸戦争と自衛隊海外派遣の開始——日米安保と国内法の交錯」

東郷雄太「天安門事件と日米関係——中国との関係回復をめぐる協調の模索」

富田晃正「「外圧」作用のプロセスにおける企業形態の重要性——総合電機メーカーとしての半導体業界から見る日米経済摩擦」

福島啓之「原爆の記憶から核のタブーへ——投下の正当性、核兵器の軍事的有用性と反核の規範意識」

西脇修「日米経済摩擦と国際秩序——米中通商摩擦との対比において」

<独立論文>

浜井和史「捕虜補償問題と「政府間和解」——対日平和条約第一六条実施をめぐる外交——」

<書評論文>

秋山肇「無国籍から問う国際秩序と人権保障」

日高薫「武器移転規制、核軍縮、人道規範」

<書評>

奥迫元、松田康博、富樫耕介

### 『国際政治』216号

勝間田弘「序論 地域主義の新局面」

佐藤俊輔「危機後 EU 移民・難民政策の対外的次元——外部化の課題と限界」

松岡美里「「合意に基づく覇権」の構築——オバマ政権からバイデン政権までのインド太平洋政策」

山崎周「インド太平洋地域主義の限界——中国による ASEAN 制度戦略の逆用」

和田洋典「競合的な地域主義と制度的リベラリズム——経済三領域の検討を通して」

湯川拓「「地域」の位相——ポピュリスト対外政策における地域主義」

鈴木早苗「地域機構における主権の制約——機構内の非対称性」

松原優華「西アフリカにおける紛争予防 ——地域機構と市民社会組織の連携」

<独立論文>

武内進一「アフリカ諸国の国連投票行動——ロシア・ウクライナ戦争をめぐって」

<書評論文>

三田香織「中東湾岸地域における再生可能エネルギーへの移行にかかる政治と政策」

立石洋子「移り変わるプーチン期のロシア像」

<書評>

溝渕正季、富田晃正、藤井広重

### 3. 英文機関紙 *International Relations of Asia-Pacific* Vol.24 No.2, No.3, Vol.25 No.1 掲載論文

#### *International Relations of the Asia-Pacific*, Vol.24 No.2

Nanae Baldauff and Yee-Kuang Heng, "Evaluating Japan's defense cooperation agreements and their transformative potential: upgrading strategic partnerships with Australia and the UK"

Tian He and Michael Magcamit, "The CPTPP, cross-strait tensions, and Taiwan's recognition for survival strategy under the democratic progressive party"

Xue Gong and Mingjiang Li, "Taking ideas and words seriously: explaining the institutionalization of the Lancang-Mekong cooperation"

Goro Fujita, "Reconsidering the Ashida memorandum: the relations between the emergency stationing plan and police reform"

Lluc Vidal López and others, "Diversifying economic risks: Japan's economic hedging toward China"

Book Reviews

#### *International Relations of the Asia-Pacific*, Vol.24 No.3

Special Issue: From Voluntarism to Obligation: The Rise of Formal Institutions in the Asia-Pacific Region

Motoshi Suzuki, "Introduction: The rise of formal institutions in the Asia-Pacific region through competitive regime complexity"

William W Grimes and others, "Financial cooperation in the Asia-Pacific as regime complex: explaining patterns of coverage, membership, and rules"

Hiroyuki Hoshiro, "Aid coordination through competition? Unintended consequences of China-Japan rivalry in foreign aid policy in Asia"

Azusa Uji, "Navigating environmental cooperation on air pollution amid political competition in East Asia"

Erin Chung and others, "Migration governance in East and Southeast Asia"

Book Reviews

*International Relations of the Asia-Pacific*, Vol.25 No.1

Hung Pham and Robert Thomson, "The delegation of discretionary power in international agreements: New comparative evidence from the association of Southeast Asian Nations"

Guangyi Pan, "Asymmetric relations and systemic misperceptions: Why and how Australia and China talk past each other"

Hoo Tiang Boon and Minh Son To, "Comrades in arms, or comrades in angst? Interest convergence, regime security, and the Vietnam factor in Cambodia's and Laos' relations with China"

Research Note

Book Review